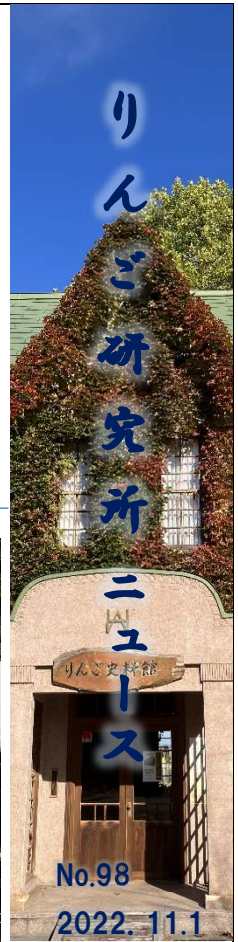


【参観デー・好条件で開催(五戸)】

県南果樹部(五戸)の参観デーを9月15日に開催しました。好天に恵まれた絶好の条件ということもあり、開場30分前には、すでに多くの方が並んで待つておりました。今年は、県南果樹部産の果実販売は行わず、新たな試みとして、圃場を巡るクイズラリーを実施し、クイズに回答しながら園内を視察いただきました。なお全問正解者?には、当研究部で収穫した果実を差し上げました。圃場の出入口は技能技師さん手作りの果実ねぶたで飾り付けたゲートを設け、入場する方の和みになっていました。この他に、アンケートの回答者には「ジヌノハート」などをデザインしたオリジナルポストカードを配布するなど、新鮮味がある内容で大変好評でした。コロナ禍にもかかわらず三百七十名と多くの方に御来場いただきました(感謝)。



青森産技



※ 14種類ラインナップ



※ 随所にアクセントを加えました。

【参観デー・黒石は台風で中止】

台風11号の接近が危ぶまれたことから、黒石のりんご研究所では参観デーを中止としました。ウイズコロナが定着してきたことから、今年こそは対面での参観デーを開催すべく準備をしてきましたので大変残念です。しかしながら、せめてもと、すでにプリントしてあった研究成果のポスターを研修館に掲示しました。中止を知らずに来られた方、資料を求めて来られた方に見ていただくことができたのは、せめてもの救いです。なお、中止の代替えとして、展示を予定していたポスターや資料をWeb上において9月16日から10月16日までの日程で公開しました。



※ 強風の時間帯はあったものの、台風の暴風域から外れ、9月6日、7日とも晴天でした。

【自動運転スピードスプレーヤ（以下、SS） 走行試験】

日本におけるSSの利用は、昭和30年に北海道の余市町で、海外から導入したことから始まりました。翌年には共立農機KKがSSの国産化に成功し、昭和33年に、青森県りんご試験場に第1号機（共立農機社）が納入されたことで、本県におけるSSでの防除が始まりました。これまで使用されていた定置式に比べて、所要労力が1/20に削減できること、10a当たりの防除経費が（当時の価値で）約5,000円安いこと等が明らかとなり、SSの効果が実証されました。これらの試験結果等が契機となり、昭和33年には板柳町に県内初のSSの共同防除組織が設立されました。平坦地にはSSの導入が指導の原則となり、昭和34年には制度資金と国の補助事業等の活用により22台が導入されました。その後も加速度的に増加し、昭和40年にはSSの導入台数は535台にまで増え、共同防除の組織化を一層促進することで、同年には県内各地に446組合が設立されました。りんご百年史には、「この時期にSSが出現していなかったら、昭和38〜40年の3,000万箱時代はない」と記されており、SSはりんご産業に多大な貢献をもたらしました。

しかし、近年は共同防除組織の構

成員の高齢化によるオペレータ不足や、SSの老朽化により組織の存続が危ぶまれているほか、オーブンタイプのSSでは、作業者の農薬被曝や騒音による聴覚障害等の課題があるほか、転倒等による死傷事故も問題となつていきます。

これらの課題に対応するため、りんご研究所では、経験の少ない作業者でも、1人で簡単かつ安全に農薬散布作業が可能な「自動運転SS」の開発に、メーカーや大学等と共同で取り組んでいます。9月29日には所内圃場で自動運転による走行試験を行い、有人散布と変わらない散布精度を確認できました。まだまだ課題は山積みですが、実用化に向けて今後も開発を進めていきます。



【所内のイチ風景 その1】

7月中旬にりんご研究所内で撮影しました（写真 上）。一体、ミツバチは何の花粉を集めているのでしょうか。蜂によって受粉した花は、秋には紅に映える葉に紛れ、濃い紫色の実を付けます（写真 下）。



【所内のイチ風景 その2】

一本の樹に、赤いリンゴと黄緑のリンゴがなっています。この品種は何でしょうか。



答えは、りんご史料館（旧庁舎）を覆っている「夏蔦」（なつづた）です。開花期にはミツバチが花の周りを飛び回り、羽音で賑やかとなります。ただしミツバチを狙ったスズメバチも来ているので、花の観察には注意が必要です。「夏蔦」は、ブドウ科植物で秋に色づいた果実は山ぶどうに似ています。毒は無いようですが、食べた後に苦みが口の中に残り、食用には向きません。

11月になり蔦の紅葉が始まりました。黒石市の景観にもなっているりんご史料館、一度ご覧になってはいかがでしょうか。（館内の開館は年末年始と土日祝を除く平日の10〜16時）

答えは、「陸奥」です。幼果に袋を掛けて栽培して収穫の約3週間前に袋をはずすと実が赤く色づきます。一方、袋を掛けず栽培した実は黄緑色となります。一樹に2色の果実が着いた光景は、何となく楽しい気分させてくれます。

【編集後記】

掲載する話題に迷っていたところ、発行予定からかなり遅れてしまいました。次号は年明け頃速やかに出したいところですが（YH）。